

基準 8 専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点

8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

観点 8-1-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

- 観点 1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。
- 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

専攻科の教育課程は専攻科委員会が中心となり検討・整備しており、最終的な修了認定は教員会議において適切に実施されている。これらを踏まえ、JABEE の点検項目「2.1(1)学生がプログラムの学習・教育達成目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育達成目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと」の評価で A 判定を受けている。また、特例適用専攻科に認定されており、カリキュラム・ポリシーに基づいた適切な科目配置となっている。よって、本観点の内容を本校は満たしていると判断される。

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。
配置している
配置していない

◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料

観点 8-1-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

【留意点】

- 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

<p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>(根拠理由欄)</p> <p>本科と専攻科の学習・教育目標は深く関連するよう定められており、その各項目に関わっている4年生から専攻科2年生までの科目の流れを専攻科委員会で整理し、定期的に状況が確認されている。また、専攻科では専門性を生かしたグループ学習を多く取り入れている。これらのことが評価され、本校専攻科は特例適用専攻科に認定されており、本科4年からの4年間で学位取得に向けた教育課程として適切であると認められている。よって、本観点の内容を本校は満たしていると判断される。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 考慮している</p> <p><input type="checkbox"/> 考慮していない</p>	<p>◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料</p>
<p>観点8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書I(1)4.において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>(根拠理由欄)</p> <p>JABEEの「2.3(1)カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果を上げる能力を持った十分な数の教員と教育支援体制が存在していること」の評価がA判定である。また、2.3(2)「カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること」、2.3(3)「教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること」、2.4(4)「教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること」という3つの評価項目がすべてA判定であり、授業形態のバランスについては、学習指導上の工夫が常に図られていると判断される。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 採用されている</p> <p><input type="checkbox"/> 採用されていない</p>	<p>◇授業形態の開講状況(バランスを含む。)がわかる資料</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。</p>

<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/>教材の工夫</p> <p><input type="checkbox"/>少人数教育</p> <p><input type="checkbox"/>対話・討論型授業</p> <p><input type="checkbox"/>フィールド型授業</p> <p><input type="checkbox"/>情報機器の活用</p> <p><input type="checkbox"/>基礎学力不足の学生に対する配慮</p> <p><input type="checkbox"/>一般科目と専門科目との連携</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。</p> <p>○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>学修総まとめ科目として「特別研究Ⅱ」と「技術者総合ゼミナール」の2科目を設定し、別の研究分野に関わる教員による複眼的な研究指導も実施されている。これらが評価され、専門科目や関連科目、専攻外科目の単位数の要件が規定されている特例適用専攻科として認定されている。以上のことより、本校専攻科のカリキュラム・ポリシーに基づいた教養教育や研究指導は、適切に実施されていると判断される。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料</p>
<p>観点8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえ</p>	

<p>た根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>（根拠理由欄）</p> <p>本校専攻科課程はJ A B E E認定プログラムに認定されている。J A B E E点検項目に、「基準1 学習・教育到達目標の設定と公開」、「基準2 教育手法」、「基準3 学習・教育目標の達成」といった基準があり、それらを満足しているため、本観点の内容を本校専攻科課程は満たしていると判断される。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>□策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所</p>
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>□行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p>
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p>□把握している</p> <p>□把握していない</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p>□周知している</p> <p>□周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>□把握している</p> <p>□把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p>□定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p>
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p> <p>□ある</p> <p>□ない</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どの</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定</p>

<p>ような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p><input type="checkbox"/> 答案の返却</p> <p><input type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/> GPAの進級判定への利用</p> <p><input type="checkbox"/> 成績分布のガイドラインの設定</p> <p><input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>観点8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p> <p>(根拠理由欄)</p> <p>本校専攻科課程は J A B E E 認定プログラムに認定されている。J A B E E 点検項目に、「基準1 学習・教育到達目標の設定と公開」、「基準3 学習・教育目標の達成」といった基準があり、それらを満足しているため、本観点の内容を本校専攻科課程は満たしていると判断される。</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p>
<p>(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>◇定めている該当規程や修了認定基準</p>
<p>(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 認定している</p> <p><input type="checkbox"/> 認定していない</p>	<p>◇関係する委員会等の会議資料</p>
<p>(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 周知している</p> <p><input type="checkbox"/> 周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p>

<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握している</p> <p><input type="checkbox"/> 把握していない</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p>
<p>8-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p> <p>特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の5-1及び5-2の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。</p>	
<p>資料 8-1-1-(1)-01 専攻科学生の海外活動人数がわかる資料 出典「平成 26～30 年度の専攻科委員会議事要旨から「海外活動支援申請者数」のみ集計」</p> <p>資料 8-1-1-(1)-02 グローバル化に対応するためにカリキュラムを改正したことがわかる資料 出典「平成 30 年度 6 月臨時兼定例教員会議資料 No.2」</p> <p>資料 8-1-1-(1)-03 海外研修結果を学生に広く周知させることがわかる資料 出典「平成 30 年 10 月 17 日 校内掲示」</p> <p>カリキュラム・ポリシーで定められている地球的視点や国際性の養成を強化するため、専攻科委員会が中心となって、学生の海外での活動を積極的に働きかけており、「海外活動支援制度」を利用して海外インターンシップや海外での学会発表を行う学生がいる(資料 8-1-1-(1)-01)。また、海外でのインターンシップ実施が成績として反映されるよう、平成 31 年度入学生からカリキュラムを変更し、「海外インターンシップ」の単位を認めることとした(資料 8-1-1-(1)-02)。また、海外インターンシップに参加した学生には、その内容を他の学生の前で発表させ、学校全体としての国際性の涵養を図っている(資料 8-1-1-(1)-03)。</p> <p>資料 8-1-3-(2)-01 指導上の工夫を行っていることがわかる資料 出典「北陸信越工学教育協会 会報第 67 号 pp.50-55」</p> <p>http://www.hokkokyo.jp/wp-content/uploads/AR2019/8bf86bf50fcf311fecdc75a6aacda165.pdf</p> <p>基準 8-1-③-(2)に関連して、本校専攻科ではカリキュラム・ポリシーにそって、創造的な研究開発に対応できる実践的技術者を養成するため、PBL 形式の演習を行っている。特に、専攻科 1 年生で開講している「創造デザイン演習」(必修科目)では、国立高専機構の競争的資金である”KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ採択事業の一環として、地域との協創による PBL 教育を行い、福井県が施策の柱としている「農工連携」「防災・減災」「放射線教育」というテーマに沿った地域課題の解決策を、別々の分野を専門とする学生からなるグループ毎に提案させている(資料 8-1-3-(2)-01)。現状認識、解決策の提案、試作、最終発表という演習の一連の流れの中で、地域住民と直接話をしたり、現場を見学したり、発表会に地域住民を招待し意見を聞くなどしたりして、地域との連携を密にとることで、教育効果を高めることを狙っている。</p>	
<p>評価の視点</p> <p>8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。</p>	
<p>観点 8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p>	

<p>○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料</p> <p>資料 8-2-1-(1)-01 専攻科入学者選抜の基本方針がわかる資料</p> <p>出典「2020年度 専攻科学生募集要項 p.1」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-02 専攻科入学者推薦選抜の出願資格がわかる資料</p> <p>出典「2020年度 専攻科学生募集要項 p.2」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-03 専攻科入学者推薦選抜の方法がわかる資料</p> <p>出典「2020年度 専攻科学生募集要項 p.3」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-04 専攻科入学者学力検査による選抜の出願資格がわかる資料</p> <p>出典「2020年度 専攻科学生募集要項 p.5」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-05 専攻科入学者学力検査による選抜方法と出題範囲、選抜基準がわかる資料</p> <p>出典「2020年度 専攻科学生募集要項 p.7」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-06 専攻科面接質問項目がわかる資料【訪問調査時資料】</p> <p>出典「平成30年度 第3回専攻科委員会資料」</p> <p>資料 8-2-1-(1)-07 面接評価基準がわかる資料【訪問調査時資料】</p> <p>出典「平成30年度 第3回専攻科委員会資料」</p>
<p>観点 8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p>	<p>◇検証の体制に関する資料</p> <p>資料 8-2-2-(1)-01 専攻科のアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証し、改善に役立てる</p>

<p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>体制がわかる資料</p> <p>出典「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則 第2条第1項」</p> <p>◇改善に役立てる体制に関する資料</p> <p>(再掲)資料 8-2-2-(1)-01 専攻科のアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証し、改善に役立てる体制がわかる資料</p> <p>出典「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則 第2条第1項」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇検証を行っていることがわかる資料</p> <p>資料 8-2-2-(2)-01 専攻科入学者選抜の面接内容の審議状況がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度 第3回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>※面接において、志願者に対してアドミッション・ポリシーに沿っているかを問うている。面接質問項目の妥当性は専攻科委員会で審議・検証されている。</p>
<p>(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>改善に役立っている</p> <p><input type="checkbox"/>改善に役立っていない</p>	<p>◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立っている状況について、資料を基に記述する。</p> <p>資料 8-2-2-(3)-01 入学者選抜の改善に役立っていることがわかる資料（面接評定方法の改善）</p> <p>出典「平成28年度 第3回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>資料 8-2-2-(3)-02 入学者選抜の改善に役立っていることがわかる資料（外部試験の換算方法の改善）</p> <p>出典「平成28年度 第12回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>※入学者の選抜方法は、専攻科委員会で審議・検証することになっており、同時に入学者選抜方法の改善に役立っていることになっている(資料 8-2-2-(1)-01)。また、推薦選抜、学力検査による選抜のいずれの入学試験においても面接があり、その中でアドミッション・ポリシーに沿った受験生であるかどうかについてが確認されている。また、合格基準としてアドミッション・ポリシーに沿っているかどうかを規定しており、この面接内容については、専攻科委員会で審議して決定している(資料 8-2-2-(2)-01)。また、この面接の評定点のつけ方がより厳密になるように改善が行</p>

	<p>われている(資料 8-2-2-(3)-01)。外部の英語試験の入学試験への換算を現実に沿ったものにする目的での改善をそれぞれ行っており(資料 8-2-2-(3)-02)、本観点を本校は満たしていると判断される。</p> <p>今後は入学時の入学者とアドミッション・ポリシーとの適合性を客観的に把握するため、入学生の本科でのGPAなどを集計して、検証を進めていく。</p>
<p>観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇学則等の該当箇所</p> <p>資料 8-2-3-(1)-01 専攻科の定員を定めていることがわかる資料</p> <p>出典「福井工業高等専門学校学則 第31条」</p>
<p>(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備に係る規程等がわかる資料</p> <p>資料 8-2-3-(2)-01 専攻科入学定員と実入学者数の関係を把握するための体制整備がわかる資料</p> <p>出典「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則 第2条第5項」</p> <p>資料 8-2-3-(2)-02 専攻科の実入学者数を把握している状況がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度 第13回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>資料 8-2-3-(2)-03 専攻科の実入学者数がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度 第13回専攻科委員会資料 No.9」</p>
<p>(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。</p> <p>■適正である</p> <p>□超過又は不足がある</p>	<p>◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表</p>
<p>(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。</p>	<p>◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じ</p>

<p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p> <p>■ 過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない</p>	<p>ないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。</p> <p>資料 8-2-3-(4)-01 専攻科棟の教室の座席数がわかる資料</p> <p>出典「平成31年度学生便覧 福井工業高等専門学校 配置図」に座席数を記入</p> <p>※最近5年間の平均で、環境システム工学専攻の入学定員に対する充足率の平均が1.57倍となっている。しかし、専攻科はもともとの定員が少なく、資料 8-2-3-(4)-01に示すように、教室の大きさや教材などには余裕がある。また、研究指導は1人の学生に対して2名以上の教員(複数名の学生指導可)がかかわることになっているが、環境システム工学専攻の教員は22名おり、平成31年度の入学生数16名に対しても、指導は十分可能である。以上の判断から、実入学者が大幅に超過しているとは判断していない。また、問題は発生していない。</p>
<p>8-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。</p>	
<p>観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学生の成績（修了時のGPA値等。）や修業年限修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■ 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 8-3-1-(1)-01 修了時に身に付ける能力を把握・評価する体制がわかる資料（教員会議）</p> <p>出典「福井工業高等専門学校教員会議規則 第2条第2項」</p> <p>資料 8-3-1-(1)-02 修了時に身に付ける能力を把握・評価</p>

<p>(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。</p> <p>■把握・評価している □把握・評価していない</p>	<p>する体制がわかる資料（専攻科委員会） 出典「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則 第2条 第5項」</p> <p>◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料</p>
<p>(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>資料 8-3-1-(2)-01 修了判定学生の単位修得状況がわかる資料 出典「平成 30 年度 2 月臨時兼定例教員会議 資料 No.2」</p> <p>資料 8-3-1-(2)-02 特別研究Ⅱ成績評価がわかる資料 出典「平成 30 年度 第 18 回専攻科委員会資料 No.3」</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 8-3-1-(2)-03 成績評価の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価していることのわかる資料 出典「平成 30 年度 2 月臨時兼定例教員会議議事要旨」</p> <p>資料 8-3-1-(2)-04 成績評価の結果から研究の成果を把握・評価していることのわかる資料 出典「平成 30 年度 第 18 回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料 8-3-1-(3)-01 平均 GPA、平均単位修得率、修業年限修了率がわかる資料 出典「平成 30 年度 第 19 回専攻科委員会資料 No. 3」の成績一覧表を基に計算</p> <p>※専攻科のすべての修了生は、学位授与の条件としている単位数を修得している(資料 8-3-1-(2)-01)。また、平成 30 年度修了生 30 名における修了時の平均 GPA は 3.07、単位修得率の平均は 98.5%、修業年限修了率は 100%であった(資料 8-3-1-(3)-01)。よって、学習・教育の成果が認められると判断される。また、修了生は特別研究を修得しており(資料 8-3-1-(2)-02)、ディプロマ・ポリシーに規定された技術者像である「生産システム（または環境システム）の設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材」に必要な研究成果が十分認められると判定できる。</p>
<p>観点 8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	

<p>【留意点】</p> <p>○ (1)の体制の整備が、観点8-3-①と同じ体制で実施されている場合には観点8-3-①と同じ資料となる。</p> <p>○ (2)(3)(4)は、観点1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 8-3-2-(1)-01 意見聴取に基づいて学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制整備がわかる資料（創造教育開発センター）</p> <p>出典「福井工業高等専門学校創造教育開発センター規則 第2条、第3条」</p>
<p>(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>□行っている</p> <p>■行っていない</p>	<p>資料 8-3-2-(1)-02 意見聴取に基づいて学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制整備がわかる資料（専攻科委員会）</p> <p>出典「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則 第2条第5項」</p>
<p>(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料</p> <p>資料 8-3-2-(3)-01 修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度 第12回専攻科委員会資料 No.3」</p> <p>資料 8-3-2-(4)-01 専攻科就職先・進学先アンケート結果</p>
<p>(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>がわかる資料</p> <p>出典「平成29年度 創造教育開発センター年次報告書」 pp.120-123 より関係部分のみ抜粋し、一部追記</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>資料 8-3-2-(5)-01 専攻科就職先・進学先アンケート結果を把握・評価していることがわかる資料</p> <p>出典「平成29年度 福井工業高等専門学校自己点検・評価報告書 p.165」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/jikotenken_2018.06.pdf#page=170</p> <p>資料 8-3-2-(5)-02 修了生(修了直後でない者)に対する意見聴取の結果の把握状況がわかる資料</p>

	<p>出典「平成 30 年度 第 12 回専攻科委員会議事要旨」</p> <p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>ディプロマ・ポリシーで規定している「学習教育目標で定めた能力（地球的視点、数学・自然科学・情報、コミュニケーション能力、デザイン能力、）の獲得」に関して、修了直後でない者と就職先・進学先アンケート結果から、どの項目についても7割以上から「十分」または「ほぼ十分」という評価を得ている。これらにより、専攻科のディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育・研究の成果が認められると判断される。</p> <p>※これまで修了時の学生に対する意見聴取の機会を持っていないので、令和元年度修了生から意見聴取を行い、学習・教育・研究の成果を評価することとしている。</p>
<p>観点 8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>◇【別紙様式】修了者進路実績表</p> <p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。</p> <p>■なっている □なっていない</p>	<p>※多くの学生が、専門科目と関連した企業や大学院に就職・進学している。環境システム工学専攻の土木系修了生は土木関係業務の公務員に就職する場合もある。よって、本校の養成すべき人材像に適した人材育成ができていないと判断される。</p>
<p>観点 8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学位の取得を目的としていない専攻科については、「□学位の取得を目的としていないので、該当しない」の欄をチェックすること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない <input type="checkbox"/> 学位の取得を目的としていないので、該当しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認められる <input type="checkbox"/> 認められない	◇学位取得状況がわかる資料 資料 8-3-4-(1)-01 学位取得状況がわかる資料 出典「平成 26 年度～平成 30 年度の特別研究Ⅱ評価結果」をもとに作成 ※平成 26 年度から 30 年度にかけて、ほぼすべての専攻科修了生が学位を取得しており、学習・教育・研究の成果が認められる。
8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	

基準 8

<p>優れた点</p> <p>8-1 の特記事項で挙げた「創造デザイン演習」の授業後のアンケートからは、一般の地域住民との意見交換や、専門が異なる人との共同作業の中で、自分の専門性を改めて認識できたとの意見や、コミュニケーションやリーダーシップの大切さを感じたとの意見が複数あったため、本演習は実践力の育成に効果がある優れた取り組みと考えられる。</p> <p>また、8-1 の特記事項で挙げたグローバル化に向けた教育については、海外インターンシップなどの取り組みを行う専攻科生が増加してきており、効果がある優れた取り組みと考えられる。</p>
<p>改善を要する点</p> <p>観点 8-2-②について、アドミッション・ポリシーに沿った入学生を受け入れることができる選抜方法を検討し、その条件を満足した受験生のみを受け入れてきた。その選抜方法が適切かどうかは、入学者選抜に関することを審議する専攻科委員会で審議されている。今後は、入学後の学生に対する調査などからさらなるデータを入手し、選抜方法の改善を継続していく。</p> <p>観点 8-3-②について、これまで修了時の学生に対する意見聴取を行う機会を設けていなかった。これは、修了直後でない修了生からのアンケートや、進路先からのアンケートにより、学習・教育・研究の成果が判断できると考えていたためである。社会に出る前の修了直後の学生に対して、どのような意見聴取を行えば客観的に学習・教育・研究の成果が評価できるのかを今後検討し、令和元年度修了生から意見聴取を行う。</p>